

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271300321		
法人名	社会福祉法人 善友会		
事業所名	グループホームさざんか		
所在地	諫早市小長井町小川原浦654番地		
自己評価作成日	令和6年7月14日	外部評価結果確定日	令和6年10月18日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体である、医療法人七久会山崎病院が隣にあり、緊急時に迅速な対応や日常の健康管理が適切に提供できる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&Ji\\_gyosyoCd=4271300321-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Ji_gyosyoCd=4271300321-00&ServiceCd=320&Type=search)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和6年8月28日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームさざんかは医療法人を母体としていることから隣接する山崎病院をかかりつけ医としての医療連携が強みである。二週間に一度の往診による日常の健康管理や夜間休日の緊急時の対応も迅速な対応が可能である。また昨年の秋頃から地域の歯科の往診を始めており法人内に限らず必要に応じて新たな医療連携の開拓を行っている。また、昨年3月のケアマネ交代をきっかけに新様式の介護計画を採用し、利用者ご家族様の意向をもとにした課題分析の記載欄を設けたことで、利用者ご家族様の意見を取り入れ介護計画に反映させる仕組みづくりを行っている。そして、身体拘束防止の取り組みについては、3か月に1回職員全員参加の身体拘束廃止会議を行い利用者一人ずつの身体拘束の記録を作成して全員で共有している。今後は委員会を立ち上げ取り組みを行う予定とのことで、今後のさらなる取り組みに期待したい。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践につなげている	法人の理念である「人が真んなか」に加えグループホームさざんかでも運営方針として「みんなで暮らしを楽しむ」を掲げて、朝食終了後に朝の会を実施しており歌を歌いながらのゲーパ―体操をして各利用者に合った脳トレグッズやパズルを楽しんでもらっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には行えていない	近隣理髪店訪問は以前は2ヶ月に1回だったが、現在は3ヶ月毎になっている。利用者の中には、ヘアカラーを希望する方もおり、オシャレを楽しんでいる。整髪中、理容師との会話を楽しんでいる方もいる。それに加え、不定期に習字を行っており、諫早市主催の文化祭に出展し、うち二人が受賞し展示されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かせていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	少しずつ活かしている	新型コロナ流行の状況により書面による会議が続いていた。令和6年5月から通常開催となり、グループ内五事業所合同で行われ、通常報告の後各事業所における取り組みや不明点などを聞いて取り入れるようにしている。会議終了後に作成する報告書は請求書発送時にご家族様へ郵送しご意見を求めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	積極的には取り組めていない	行政との連携は積極的に取り組めていなかったが、ご家族様からの要望にマイナンバーカードの取得について相談があり、利用者全員が未取得である事が分かり、他のご家族様から了承を取り、取得についてサポートする為、市役所職員に連絡をとり取得について担当者に来所してもらい説明を受けている。今後あらゆる面においても相談をしたいと思っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1度職員会議にて話し合い、共有し正しく理解し取り組んでいる	運営規程の改定を行っており高齢者虐待防止・ハラスメントを設け高齢者虐待防止委員会と責任者を設置し必要な体制の整備を行っている。3ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開催し利用者全員一人ひとりの様子を議題に上げ身体拘束未実施を確認している。同時に事故防止委員会も実施し、事故内容について職員全員で話し合い事故防止に務めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1度職員会議にて話し合い、共有し防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の職員会議にて話し合い、共有し支援できている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、疑問点を尋ね理解・納得を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からは契約時に利用者様からは日常的にお茶の時間等に意見を聞いている	ご家族様との面会は面会人数を少し緩和して5～6名まで許可している。しかし居室への入室はまだ許されておらず、玄関先で面会となっている。ご家族様から荷物等が届いた時は、必ず連絡しご家族様と利用者で話をしてもらうようにしている。自分の思いや意見を上手に表す事の苦手な利用者には選択しやすいように提案して選んでもらうように声かけしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議等にて意見・提案を聞き反映させている	毎月の職員会議では一人ひとりの利用者の状況について話し合い検討している。職員から車いすの利用者を歩行器に戻せないかとは提案があり、職員がしっかり見守ることを条件に支援を行っている。職員一人ひとりの面談については決まった時期には行っておらず管理者が気付いた時に行っている。	管理者と職員との対話は、重要な事でもあり、職員一人ひとりの考えを聞く機会でもあり、定期的な面談を行う事を期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内、職場外の研修にも力をいれていきたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	少しずつ取り組む機会を増やしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接、入所時に要望等確認している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族様に要望等を確認している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じた支援を見極められるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般において、利用者様ご本人ができることは無理のない範囲で行うようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等、ご家族様に利用者様の普段の様子などを伝えたり、利用者様が希望されればご家族様に電話を繋げたりしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある理容室から散髪にきてもらったり、利用者様へ届け物があった際にはお礼の電話を繋げている	現在の外部との接触は3ヶ月に1度の理髪室との関係にとどめている。コロナ感染が落ち着いた時を期に、利用者の友人が来られて旧交を温める事があった。かかりつけ医への通院時、ご家族の同行で外食も行えるようになった。今後においても、コロナ対策には、手指消毒、マスク手袋の着用を気をつけ利用者の健康第一を考え支援を行う方針である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係、性格等を把握・考慮し支え合えるような支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後の相談や支援はできていない		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様に面会時等に自宅ですごされていた時の趣味や嗜好を確認し、利用者様には日々のコミュニケーションにて思い・意向の把握に努めている	入所時にご家族様から利用者の自宅での過ごし方や食べ物の好みなどの聞き取りを行い、入所後は日々の支援の中で利用者の意向を汲み取り支援に反映させている。お茶の時間の後や湯船に浸かっている時など利用者がリラックスしているときに気がけて声をかけ利用者からの話を引き出す工夫を行っている。このような時に利用者の昔の話が出ることが多く、利用者のルーツを知る機会のひとつとなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時、面会時にご家族様・利用者様、双方に聞き取りをし、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残し、口頭にて職員間での申し送り等で現状の把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に職員間で共有しご家族様にも確認してもらい、作成できている	昨年3月のケアマネの交代により介護計画を新様式に変更し、利用者のご家族の意向をもとに課題分析の結果を記載するようになり、ニーズと支援方針との繋がりが明確になった。また、利用者の担当を定めず全職員で全利用者を担当する形をとっている。介護計画の変更前には全職員参加の担当者会議を行うようになり、支援内容についてより一体となって検討する体制となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に変化・気づき等記入し共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な範囲で取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	レクリエーションで夏祭り企画など計画し、暮らしを楽しんでいただけるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する山崎病院をかかりつけ医にしたいと考えており、医師との良好な関係を維持し、適切で迅速な医療を受けられるよう支援している	基本的には隣接する山崎病院をかかりつけ医にすすめており、病院との連携が強みで二週間に一度の往診や、夜間や休日の緊急時の対応を行っている。またご家族様の歯科通院のニーズをもとに山崎病院の院長の発案で昨年の秋頃から近隣の歯科からの不定期での往診を受けており入れ歯の調整などを行っている。ある利用者の歯槽膿漏による抜歯の際は血液をサラサラにする薬の服用について山崎病院と歯科の間に入り相談をする支援を行った。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	山崎病院の看護師に利用者様の気づき等あれば報告・連絡・相談をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換できている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様だけに説明・話し合いをしている	グループホームさざんかでは看取りは行わず重度化した場合は母体の医療機関か特別養護老人ホームへの移行を促している。入所時にご家族様へ説明を行い同意書をとっており、重度化した時にも再度説明を行っている。現在は特別養護老人ホームへの移行を視野に入れている利用者が1名いるが移行の段階の判断については医師との相談を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	地元の消防署の協力のもと、定期的に避難訓練が実施できている	火災の避難訓練は日中・夜間各1回ずつ職員全員参加で避難訓練を行っている。避難訓練の際は消防署の高来分署に協力を依頼しており、実際に消防車と救急車を出動しての訓練となっている。自然災害では土砂崩れと津波が考えられるが、去年は自然災害の避難訓練は行っていない。備蓄は全利用者の1日分の食料を備えている。	自然災害時は施設内に留まる方が安全な場合も多いが、津波や地震により建物に留まれない場合も十分考えられる。津波の際は施設の上の駐車場、地震の際は文化会館への避難を考えているとのことなので、具体的な避難手順等を検討しそれが実現可能かどうか避難訓練を通して検証することを期待する。また備蓄が食料1日分のみとのことなので、災害時の業務継続のため3日分の食料と備品を備えた上で、備蓄リストを作成し備蓄の管理に活用することを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助時には必ず声かけを行い、更衣時にはドアを閉め対応し、丁寧な言葉かけをしている	共用空間に近いトイレが狭くドアを閉めて排泄支援ができないため、トイレをパーティションで囲いカーテンで目隠しをしているが、昨年の外部評価にて排泄支援の際にカーテンの隙間から中の様子が見えているとの指摘を受け、カーテンを長いものに交換し隙間ができないように改善を行っている。排泄支援時の服の着脱はトイレの中のみで行いパーティション内では行わないようにしている。 また、職員が利用者の要望にすぐに答えられず待たせる場合は利用者へ説明を行い納得してもらってから順番に要望に答えるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ利用者様に決定していただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴時以外はできるだけ利用者様の意思を尊重し、自室にてテレビを見られたり、編み物をされたりして過ごしていただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ利用者様自身にて、くしで髪をとおしてもらったり、好きな洋服を着ていただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や食器拭きなどのお手伝いをしていただいている	職員が輪番制で2週間分の献立を考え、ユニット内の対面式の台所で利用者の様子を見ながら調理を行っている。今年中にケアマネと協力し栄養バランスについての職員研修を実施する予定である。グループホームさざんか内での委員会の立ち上げを計画中で、今後は委員会の活動として食事について取り組んでいきたいとのことであった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりの状態や力に合うよう、できる範囲で支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態に応じた口腔ケアをしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	早めの言葉かけ、時間でのトイレ誘導を行い、失敗やパット使用量を減らすよう支援している	排泄のタイミングが利用者により異なるため、排尿については個人別の記録、排便については全体の記録表をつけて排泄状況を把握している。時間でのトイレ誘導時に出なかった場合は次回の誘導時間を早めるなど一日の状況を見ながら臨機応変に対応し、利用者がトイレで排泄できるように支援している。 利用者は共用空間にいることが多いため、誘導時は利用者の耳元で言葉かけをするなど羞恥心への配慮をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後の体操や個々に合った運動や往診での医師への報告・相談を行い、個々に応じた服薬等も使用し、予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は週2回と決まっているが、午前・午後・順番は利用者様の希望にそった支援ができています	火曜と土曜の週2日を入浴日として、午前と午後に分かれて入浴している。入浴順はできるだけ利用者の希望に沿っている。シャワー浴の場合はシャワーだけでなく桶に湯を入れて足湯をしながら湯船の湯をかけたりしてできるだけ体を温めるようにしている。入浴を断られた際は体重を測りましょうと脱衣所まで促すことで入浴まで繋げているが、利用者の眠気が強く入浴が危険だと判断した場合は無理に入浴せず次回入浴に持ち越しを行う場合もあり利用者の様子に応じて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調・気分に応じ、室温・居室の照明等の配慮し、適切に休息していただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用する目的等は介護記録へ記入し副作用等は、医師の話を聞き処方箋等をみて職員に共有し、理解してもらうよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の下準備や食器拭き、洗濯物をたたんでいただき、利用者様の力を活かした支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外へ出かける支援はできていないが、施設周辺の散歩、自販機への買い物のみ支援している	コロナによる外出制限のため、外出ができていないが、気候が良いときに施設周辺を散歩したり車いすを押ししたりして外の空気に触れる機会を作っている。外出制限中だが特例として利用者の夫が亡くなった際は葬式と四十九日への出席や家族との食事をしたとのことであった。外出についてはコロナ禍前に利用者全員でのドライブはできないが、法人事務局の職員に運転してもらおうなど協力を得ながら利用者2人ずつのドライブを検討中とのことである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失やトラブル防止のため、利用者様が必要なものはご家族様へ依頼するか、ホームで立替をするようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話・手紙のやり取りができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に季節に合った飾り付けをし、台所・ダイニングを毎食後掃除しテーブルも毎食後拭いて快適に過ごせるよう工夫している	食堂や台所は毎食後、食器を洗う職員が掃除も行うことにより清潔が保たれている。共用空間は広々としており昨年、奥のトイレ前に置いていた棚を撤去したことで、さらに共有空間が広く使えるようになっていた。また施設内で行った夏祭りの職員手作りの提灯が天井から下げてあり、壁にひまわりの飾りや利用者の習字、椅子には利用者手編みの椅子カバーがあり家庭的な雰囲気を感じる空間であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂テーブルの席の隣同士や前後で話ができるよう、一人ひとりに合った居場所づくりの工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火を扱うもの以外で家で使用してたものや好きなものがあれば自由に持ってきていただき、利用者様が心地よく過ごしていただいている	居室のシーツ交換は週に1回行っている。火を扱うものや刃物以外は自由に持ち込むことができ、ソファや写真、仏壇、人形、裁縫道具などを持参した事例がある。ドアは見守りのため昼夜問わず開けているためトイレに近い居室については人通りが多く視線が気になることに配慮し居室入口にカーテン等をつけることを検討中である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒のリスクが高くない限り、できるだけ見守りだけで好きなことやできることをしていただいている		